

別当谷上流における手取統植物化石の新産出地について

松尾 秀邦 金沢大学教養部地学教室
東野 外志男 石川県白山自然保護センター

A NEW LOCALITY OF THE TEDORIAN FLORA IN THE UPPER STREAM OF BETTODANI, MT. HAKUSAN AREA, CENTRAL JAPAN

Hidekuni MATSUO, *Department of Geology, College of Liberal Arts, Kanazawa University*
Toshio HIGASHINO, *Hakusan Nature Conservation Center, Ishikawa*

昭和54年度手取統調査として、9月上旬及び10月下旬に白峰村別当谷へ入山した。

9月に入山したときに、別当谷の上流、建設用資材運搬道路の終点に崩土が認められた(図1)。

この崩土の礫中に、含白雲母質砂岩、灰青色細粒砂岩及び黑色泥質頁岩が存在し、これらの中に手取統植物群に属する植物化石が認められた。

10月下旬にも当該地点を訪れ、採集を試みたが、大した成果を挙げることはできなかった。この地点から西方の対岸(約600m離れている)を望むと、木村達明・関戸信次(1976, 1978)が記載した“別当くずれ”と称する一枚岩に見える崩れの跡が存在し、走向・傾斜は若干乱れてはいるが、今回の地点と同一層準と判断することができた。

今回、手取統植物化石を産出した地点は、崩土帯であるが、岩質及び植物化石の構成種から判断すると、桑島化石壁の層準のV~VII(石川県教育委員会編, 1978)に対比できる。

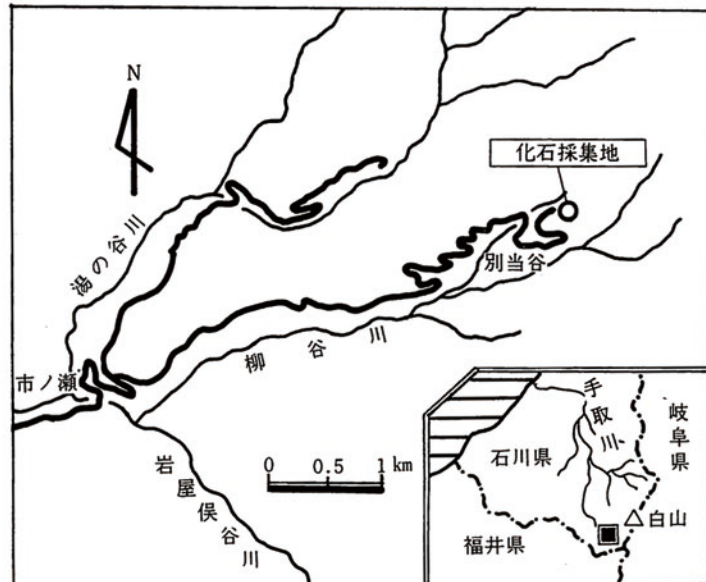


図1 別当谷上流の化石採集地

今まで採集した化石種は次の通りである（化石種の産出量の多寡も示す。）

有節植物	<i>Equisetum</i> sp.	少
シダ植物	<i>Onychiopsis elongata</i>	普通
	<i>Sphenopteris</i> sp.	稀
	" <i>Adiantites</i> " <i>sewardi</i>	稀
	<i>Cladophlebis denticulata</i>	稀
	<i>Cladophlebis exiliformis</i>	多
裸子植物	ソテツ綱	<i>Konnoia dictyophylloides</i> * 少
		<i>Nilssonia</i> sp. 稀
	イチョウ綱	<i>Ginkgoites</i> sp. 稀
	球果植物綱	<i>Nageia reinii</i> 少
		<i>Podocarpus tedoriensis</i> 稀
		<i>Podozamites lanceolatus</i> 多

（**Konnoia* と称する古生代植物属があって近似的名称であるので属名は変更する必要がある。）

これらの構成種と“別当くずれ”のを比較すると、*Nilssonia* 属の産出で差が認められ、今回の地点の方が遙かに個体数において少量であった。*Konnoia* 属を除いては同様の構成種であるので、桑島層上位のⅤ～Ⅶ一葉帯であることには肯定できる。

ただ、“別当くずれ”が赤岩層群の岩層中に存在すると判定され、白亜紀下部の植物群として報告されている木村・関戸の説に対しては疑問が残る。

今回の調査からは、大村一夫（1973）が桑島層上部と赤岩層下部は交指関係にあつて、区別することができないと考えた説に対し賛成すると同時に、手取統植物群がジュラー白亜紀（Jurassocretaceous）的陸成層とも称すべき堆積層に存在することと考えるべきであると判断するのである。

文 献

- 石川県教育委員会編（1978）：手取川流域の手取統珪化木産地調査報告書，301pp.
- 木村達明・関戸信次（1976）：Mesozoic plants from the Akaiwa Formation (Upper Neocomian), the Itoshiro Group, Central Honshu, Japan. 古生物学会紀事, 103, 343—378
- ・———（1978）：Addition to the Mesozoic plants from the Akaiwa Formation (Upper Neocomian), the Itoshiro Group, Central Honshu, Japan, 前掲, 109, 259—279
- 大村一夫（1973）：飛驒山地に分布する白亜系の層位学的研究 I, 北陸地方の白亜系, 金沢大学教養部論集自然科学篇, 10, 107—153.